

1988年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1989. 3

交野市教育委員会

目 次

例 言

はしがき

第1章 1988年度埋蔵文化財発掘調査概要	1
-----------------------	---

第2章 寺村遺跡調査報告	3
--------------	---

(1) 位 置	4
(2) 層 序	5
(3) 遺 構	6
(4) 遺 物	6
(5) まとめ	12

第3章 交野郡街跡遺跡調査報告	13
-----------------	----

(1) 位 置	14
(2) 層 序	15
(3) 遺 構	15
(4) 遺 物	16
(5) まとめ	17

挿 図 目 次

図1 1988年度交野市内発掘調査位置図	2
----------------------	---

図2 調査地位置図(1)	3
--------------	---

図3 調査地位置図(2)	4
--------------	---

図4 調査地断面実測図	5
-------------	---

図5 調査地造構平面実測図	6
---------------	---

図6 出土遺物実測図	9
------------	---

図7 調査地位置図(1)	13
--------------	----

図8 調査地位置図(2)	14
--------------	----

図9 調査地断面実測図	15
-------------	----

図10 出土遺物実測図	16
-------------	----

表 目 次

表1 1988年度発掘調査一覧表	1
------------------	---

表2 出土遺物観察表	7
------------	---

例　　言

1. 本書は、交野市教育委員会が、昭和63年度国庫補助事業(総額1,600,000円、国庫補助50%、府補助25%、市負担25%)として実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、交野市教育委員会が実施し、社会教育課の奥野和夫、山口博志が担当した。
3. 本書の作成及び遺物の整理にあたっては、府立交野高校教諭小貫充、小川暢子、齊藤登美子、好光直子、竹内毅、大場一、諸氏の協力を得た。
4. 調査の実施に際しては、大中寿之、大中俊文、船吉仙句、鳴澤泰彦、北村尚博、永井敏勝、真鍋成史、丹羽亨、諸氏の協力を得た。

はしがき

昭和63年8月より本市教育委員会にて実施いたしました交野市寺南野の交野高校敷地内に存在する東車塚古墳の発掘調査は、盜掘されることなく埋葬当時のままで出土した副葬品や、全国でも例のない長い木棺の発見という輝かしい成果を挙げることができました。尚、引き続き開催されました現地説明会には、市内のみならず各地から1000名以上もの人々が見学に来られ、考古学研究者のみならず一般の考古学ファンをも魅了した次第でございます。

また、このような輝かしい調査の他にも、昨年度と同様、土木工事に伴う緊急発掘調査を数多く実施いたしました。

これらの調査は、誠に地道な調査ではございますが、東車塚古墳をはじめとする周知の遺跡の成立過程及び遺跡の範囲確認をはじめ、できるかぎり検出された遺跡を保存するためにも欠かせないものでございます。

本年度は、主に寺村遺跡、森遺跡、交野郡衙跡の緊急発掘調査を実施し、それぞれ成果を挙げることができました。調査結果につきましては本書に記述してあるとおりでございます。

来年度につきましても、数多くの発掘調査の予定がされております。つきましては、今後とも皆様方のより一層の御指導、御協力を賜わりますようお願い申し上げます。



交野市教育委員会

教育長 伊藤 史朗

交野市の位置図

第1章 1988年度交野市内遺跡群発掘調査概要

昭和63年度、交野市内において513件の建築確認申請があった。このうち、周知の「埋蔵文化財包蔵地」に関わる20件については、文化財保護法第57条2及び3による発掘届出を行い、その内13件について試掘及び発掘調査を実施し、その他については立会調査等を実施した。

また、周知の「埋蔵文化財包蔵地」以外の地域についても遺跡の存在の可能性のある9件については、試掘及び立会調査を実施した。

本年度、交野市教育委員会が、国庫補助事業にて実施した調査については、以下の一覧表のとおりである。

表1 1988年度発掘調査一覧表

調査区	遺跡名	申請者	所在地	面積(㎡)	備考
1	森	交野市土地開発公社 北田輝雄	交野市森南 1丁目294,388	300.00	別途報告書「森遺跡」に記載 (補助対象外)
2	寺 村	畠山秋枝	交野市寺1丁目 277-1,278	277.98	本書3ページ
3	寺 村	奥 一枝	交野市寺1丁目 263-3	143.31	3m×1mのトレンチを設定。 地表下0.9mまで掘り下げる。 砂層が続く。遺物・遺構なし。
4	森	大門康剛	交野市森南 3丁目713	430.00	2m×1mのトレンチ2箇所設定。 0.8mまで掘り下げる。 地山隕認できず。遺物・遺構なし。
5	天田神社	井上行雄	交野市布市 1丁目163	93.28	1.5m×1mのトレンチを設定。 地表下0.5mにて地山となる。 遺物・遺構なし。
6	東車塚古墳	交野市教育委員会 伊藤史朗	交野市寺南野	220.00	別途、報告書作成中。 (補助対象外)
7	倉治小学校西	岡山正男	交野市倉治 2丁目674-1	639.45	10m×1.5mのトレンチを設定する。 地表下(山耕作面)0.4mに包含層の可能性のある層を確認するが、工事による遺構への影響がないため、層の確認のみにとどめた。
8	外殿垣内	吉井幸男	交野市藤が尾 5丁目169-1	432.58	2m×1.5mのトレンチ2箇所と、2m×2mのトレンチを2箇所設定する。 1.6mまで掘り下がるが盛土が続いている。
9	倉治東	豊田久美子	交野市東倉治 5丁目2173-29	106.40	4m×1mのトレンチを設定。 全体を地表下1.6mまで下げ、一部を1.8mまで下げる。砂層が続く。遺物・遺構なし。
10	交野郡衙跡	玄藤勝 玄藤ミエ	交野市郡津 3丁目1442-2	241.32	2m×2mのトレンチを2箇所設定。地表下1.4mまで掘り下がるが、1.1mのところで山耕作面となり、工事による遺構への影響は全くないため、調査をとどめた。
11	交野郡衙跡 長宝寺跡	今堀寛治	交野市郡津 1丁目377-2	304.68	本書14ページ
12	森	北村昭三	交野市森南 1丁目247-1	296.64	1.5m×1mのトレンチを設定。 地表下0.8mまで下げる。砂層が続く。 遺物・遺構なし。
13	森	向井知子	交野市森南 2丁目648	360.58	4m×1mのトレンチを設定。 地表下0.2m～0.4mで地盤。 遺物・遺構なし。

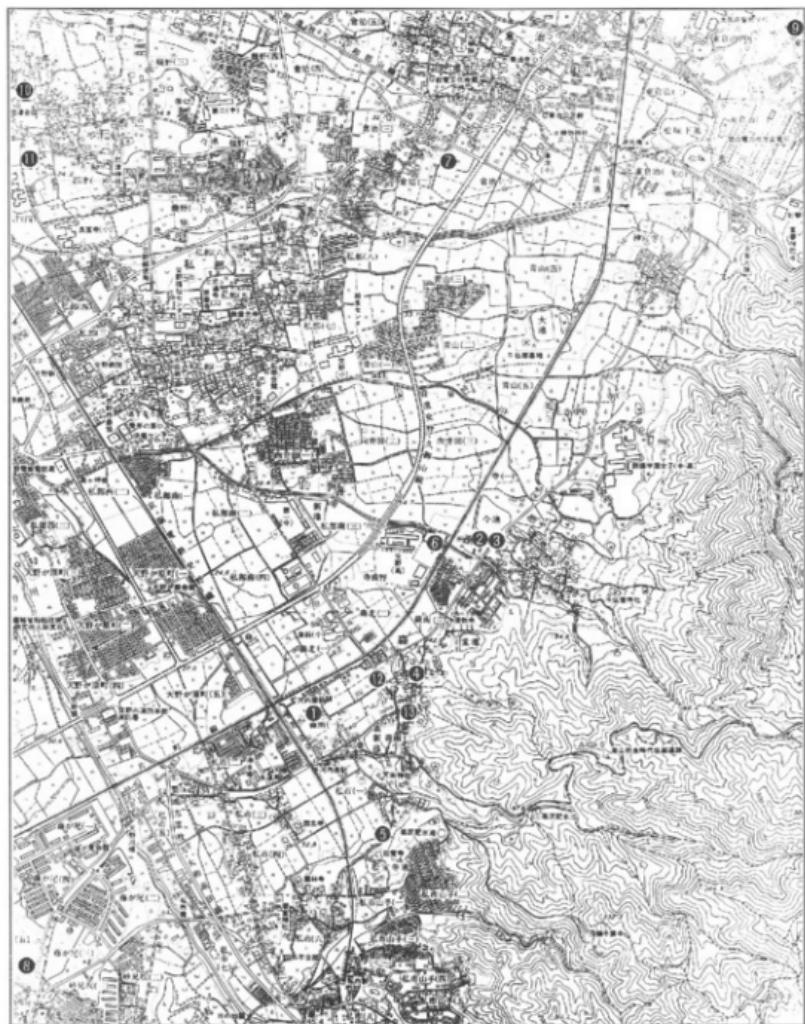


図1 1988年度交野市内発掘調査位置図

1 : 20,000

第2章 寺村遺跡調査報告

寺村遺跡

南北に続く生駒山系の標高318mの竜王山の付近から派生し、「おちご谷」と呼ぶ谷筋に沿った北側の尾根筋に旧大字寺の集落が形成されている。

寺村遺跡はこの尾根筋の先端部分の交野市寺1丁目に所在する。

寺村遺跡周辺の遺跡としては、まず同遺跡から西側を見下ろした所に前期後半から中期後半の古墳である車塚古墳群や、現在の寺の集落が形成される前に存在し、大水によって消え去ったとされる古い寺村の集落跡である今井遺跡が存在する。また、東側山麓部分には横穴式石室を有する寺古墳群が存在する。

これまで寺村遺跡における本格的調査はなされていないが、これまで出土した遺物から、同遺跡は弥生時代から中世にかけての遺跡と推測される。



図2 調査地位置図(1)

1:2500

(1) 位 置

今回の調査地は、府立交野高校の北側、市道私部・寺線を東側に向かいJR学研都市線のガードを潜ってすぐ左側の交野市寺南野1丁目277・288番地に位置する。同調査地は、ほぼ市内全体を一望にして見渡すことができる尾根筋のほぼ先端部分である。標高は42mである。

調査は、東西6m、南北に2mのトレンチを設定した。その後調査の進行に伴い、トレンチの東側部分から遺構及び遺物を多数検出したため、さらに南側へ1.5m延長して調査を実施した。

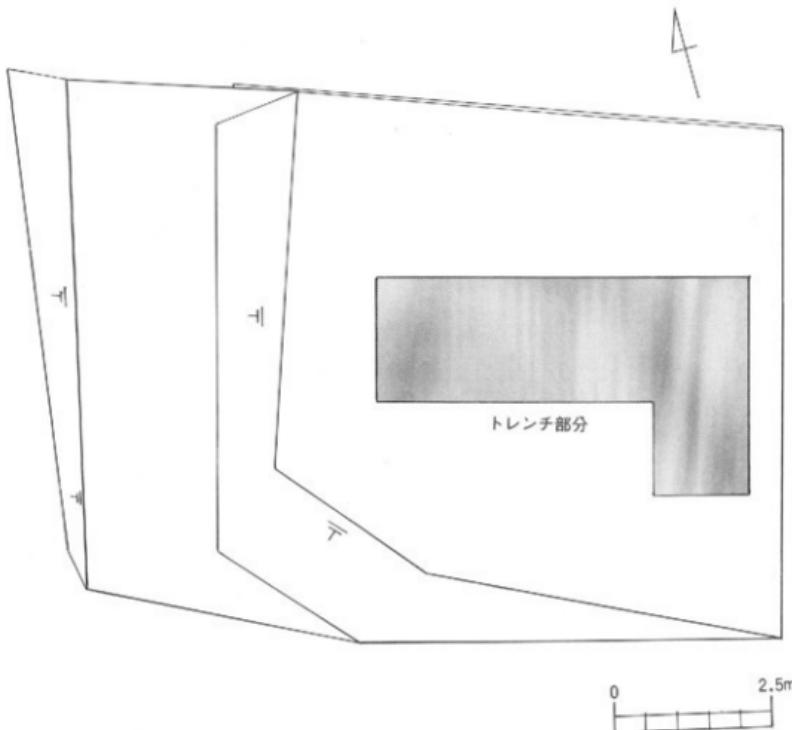


図3 調査地位置図(2)

(2) 層序

全体的に花崗岩質の砂質土層にて形成されている。

地表下約10cmの表土部分を除けば、下層の第2・第3層については、ほとんど土色に変化が見られず黄灰色系の砂質土が地表下60cmまで続き、調査地東側部分の第3層下に検出された溝の部分が、茶灰色を呈すのみである。

尚、各層の堆積については、地形に応じた形で、東側から西側に、北側から南側へと傾斜しながら堆積する。

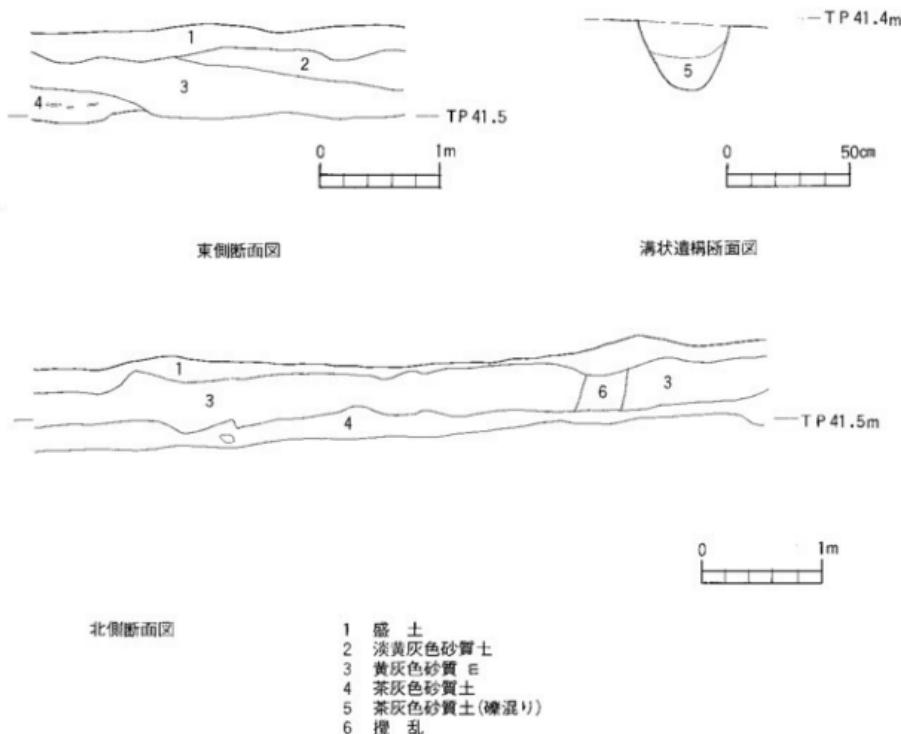
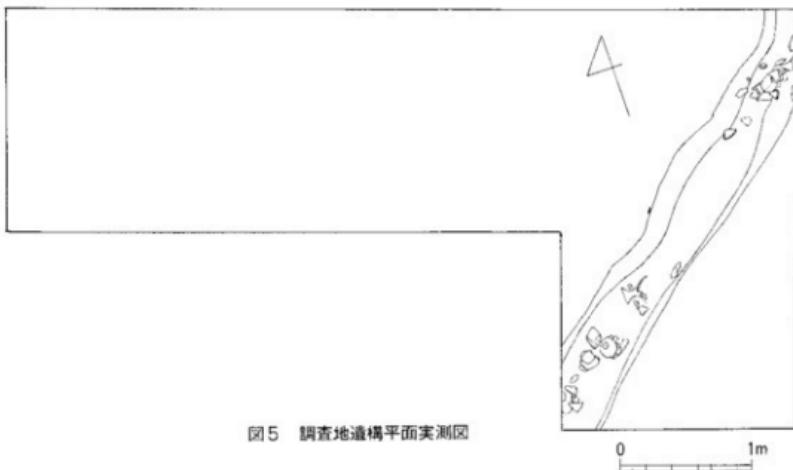


図4 調査地断面実測図

(3) 遺構

調査地東端部分で、北東方向から南西方向へ続く溝状遺構1条を検出した。遺構は、幅約50cmで、最深部は30cmを測る。

この溝状遺構は、わずか3.5mの部分を調査しただけであったが、遺構内より弥生時代後期から古墳時代前期の土器を多量に出土した。遺構の性格については不明であるが、同遺構からは前記の時期以外の遺物は検出されず、このことから同溝状遺構は古墳時代前期頃まで機能していたものと推定される。



(4) 遺物

本調査地からは、調査面積の狭いのにもかかわらず、弥生時代後期から中世に至る数多くの遺物を出土したが、ここでは主要なものだけを以下の出土遺物観察表にまとめて掲載した。

表2 出土遺物観察表

番号	器 区分番号	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
1	高杯 (杯部)	復元口径 26.1 残存器高 4.8	体部はゆるやかに内湾し、口縁部は外反し、端部は丸い。	マキアゲ成形 外面 ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	胎土 1~5mm程度の砂粒を多く含む 色調 外面 棕(2.5YR6/6) 内面 棕(2.5YR6/6) 焼成 良好	反転復元	
2	高杯 (脚部)	低径 16.9 残存器高 9.2	脚部は下外方に下がり裏部は外反する。端部は内傾する平底を有す。 3方向に円孔を穿つ	マキアゲ成形 外面 ヘラミガキ 内面 指輪圧痕 しほり目	胎土 粗小の砂粒及び1mm程度の長石を含む 色調 外面 [に]灰褐色(7.5YR7/4) 内面 [に]灰褐色(7.5YR7/4) 焼成 良好		
3	高杯 (脚部)	復元底径 18.5 器高 9.9	脚部は下外方に下がり、根部は外反する。端部は内傾する平底を有す。 4方向に円孔を穿つ。	マキアゲ成形 外面 ヘラミガキ 内面 ナデ	胎土 1~2mm程度の砂粒を含む 色調 外面 [に]灰褐色(10YR7/2) 内面 [に]灰褐色(10YR7/2) 焼成 良好		
4	高杯	口径 底径 器高	26.4 16.0 16.4	体部はゆるやかに内湾し、口縁部は外反して、端部は平面を有す。 脚部は下外方に下がり、根部は外反する。端部は内傾する平底を有す。 脚部の3ヶ所にそれぞれ4本の沈線を有し、3方向に円孔を穿つ。	マキアゲ成形 外面 杯部 キヨヌタ 底部 ヘラミガキ 脚部 ヘラミガキ 指輪部 ヨコナデ 内面 杯部 ヘラミガキ 脚部 ヨコナデ	胎土 1~2mm程度の砂粒を含む 色調 外面 [に]灰褐色(7.5YR6/3) 内面 [に]灰褐色(7.5YR6/3) 焼成 良好	
5	器台	復元口径 22.2 復元底径 16.2 器高 15.1	口縁部は外反して、端部は平面を有す。 端部は外反して下がり、端部は平面を有す。	マキアゲ成形 外面 ハケ調整 内面 ハケ調整 しほり目	胎土 粗小砂粒を多量に含む 色調 外面 [に]灰褐色(7.5YR7/3) 内面 [に]灰褐色(7.5YR7/3) 焼成 良好	反転復元	
6	短頸壺	口径 体部最大径 残存器高	12.0 27.8 25.0	受口と口縁で端部は丸い。 体部は内湾して下がる。	マキアゲ成形 外面 口縁部 横排列点文と9条の沈線を有す。 体部 ヘラミガキ 内面 ハケ調整	胎土 1~2mm程度の長石を多量に含む。 色調 外面 棕褐色(10R6/6) 内面 棕褐色(10R6/6) 焼成 良好	
7	壺 (口縁部) (底部)	口径 底径 残存器高 (口縁部)4.9 (底部)2.8	12.6 4.6 4.9 2.8	口縁部は外反してのび、端部は平面を有す。 端部はゆるやかに弯曲し、体部は下外方に下がる。 底部はドーナツ底を呈す。	マキアゲ成形 外面 指輪圧痕 その他剥落不明	胎土 1~3mm程度の砂粒を多量に含む。 色調 外面 棕(2.5YR7/8) 内面 棕(2.5YR7/8) 焼成 良好	
8	壺 (口縁部) (体部)	復元口径 11.8 残存器高 3.5	口縁部は上外方にのびる 端部は平面を有す。	マキアゲ成形 外面 ハケ調整の後、ヨコナデ 内面 ヨコナデ	胎土 0.5~1.5mm程度の砂粒を含む 色調 外面 [に]灰褐色(7.5YR7/4) 内面 [に]灰褐色(7.5YR7/4) 焼成 良好	反転復元	
9	壺 (口縁部) (体部)	復元口径 12.4 残存器高 6.2	口縁部はわずかに外反し、端部は平面を有す。 端部はゆるやかに弯曲し、体部は下外方に下がる。	マキアゲ成形 外面 ヘラミガキ 内面 ナデ 体部 ヘラケズリ	胎土 0.1~1mm程度の微小砂粒を含む 色調 外面 浅黄褐(10YR8/3) 内面 浅黄褐(10YR8/3) 焼成 良好	反転復元	
10	壺 (底部)	底径 3.9 残存器高 2.0	底部は平面を呈す。	マキアゲ成形 外面 ヘラミガキ 内面 剥落不明	胎土 1~3mm程度の砂粒を多量に含む。 色調 外面 浅黄褐(7.5YR8/3) 内面 浅黄褐(7.5YR8/3) 焼成 良好	黒斑	
11	壺 (底座)	底径 4.4 残存器高 4.1	底部は平面を呈す。	マキアゲ成形 外面 底部に指輪圧痕 内面 剥落不明	胎土 0.5~1.5mm程度の砂粒を多量に含む。 色調 外面 [に]灰褐色(5YR5/4) 内面 [に]灰褐色(7.5YR6/4) 焼成 良好		

番号	器種 区分番号	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	壺 (底部)	底 部 径 4.2 残存基高 2.2	底部は平底を呈す。	マキアゲ成形 外面 タタキ 他はヨコナデ 内面 ナデ	胎土 1~2mm程度の砂粒を含む。 色調 外面 棕(7.5YR7/6) 内面 灰(N4/4) 焼成 良好	
13	壺 (底部)	底 部 径 5.2 残存基高 7.8	底部はドーナツ底を呈す。	マキアゲ成形 外面 体部はヘラミガミ、底部に指 彌压痕あり 内面 ハケ調整 指彌压痕	胎土 1~2mm程度の砂粒を含む。 色調 外面 浅黄橙(10YR6/3) 内面 ニシイ地(7.5YR7/4) 焼成 良好	反転合成 黒窓
14	甕	復元口径 16.4 復元体部最大 径 16.0 残存基高 19.6	口縁部は上外方にのひ、葉部は平蓋 を有す。 頸部はゆるやかに弯曲する。 体部は、ゆるやかに内反して長胴形 を呈す。	マキアゲ成形 外面 口縁部は横ナデ 体部は平行タタキ 内面 体部は横ナデ	胎土 1~3mm程度の砂粒を多量に含む。 色調 外面 明褐色(5YR7/2) 内面 ニシイ地(7.5YR6/4) 焼成 良好	
15	壺 (底部)	底 部 径 4.2 残存基高 6.6	体部は、上外方にのひる。 底部はあげ底を呈す。	マキアゲ成形 外面 タタキ 内面 ハケ調整	胎土 0.5~2mm程度の砂粒を含む。 色調 外面 ニシイ地(10YR7/2) 内面 ニシイ地(10YR7/2) 焼成 良好	反転復元
16	甕 (底部)	器 高 7.1 復元口径 14.2 底 部 径 4.1	体部はやや内反してのひる。 口縁部は丸い。 底部はあげ底を呈す。	マキアゲ成形 外面 指彌压痕 内面 指押さえの後ナデ	胎土 1~3mm程度の砂粒を含む。 色調 外面 棕(5YR7/6) 内面 棕(5YR7/6) 焼成 良好	
17	壺 (底部)	復元底深 2.9 残存基高 6.2	体部は上外方にのひる。	マキアゲ成形 外面 体部は刺落不明 底部に指彌压痕 内面 ハケ調整 指彌压痕	胎土 1~2mm程度の砂粒を含む。 色調 外面 棕(5YR8/7) 内面 浅黄橙(7.5YR8/6) 焼成 良好	
18	甕 (口縁部)	復元口径 19.4 残存基高 3.8	口縁部は上外方にのひた後彎曲し、 ほぼ垂直にのひる。 端部は平面を有す。 頸部はくの字形に彎曲し、体部は下 方向に下がる。	マキアゲ成形 外面 口縁部は卵盛列点裁と横ナデ 端部に四本の沈線 内面 橫ナデ	胎土 0.1~1m程度の砂粒を多量に 含む。 色調 外面 棕(5YR8/3) 内面 浅黄橙(7.5YR8/3) 焼成 良好	反転復元
19	甕 (口縁部)	復元口径 18.4 残存基高 4.5	口縁部は外反してのひる。 端部は平面を有す。 頸部はくの字形を呈す。	マキアゲ成形 外面 口縁部はハケ調整 内面 ヨコナデ	胎土 0.5~4mm程度の砂粒を多量に 含む。 色調 内面 淡黄橙(10YR8/3) 外面 淡黄橙(10YR8/3) 焼成 良好	反転復元
20	甕 (口縁部)	復元口径 16.2 残存基高 3.2	口縁部はやや外反してのひる。 端部は平面を有す。 頸部はくの字形を呈す。	マキアゲ成形 外面、内面とも刺落不明	胎土 0.5~2mm程度の砂粒を多量に 含む。 色調 内面 灰白(2.5YR8/2) 外面 灰白(2.5YR8/2) 焼成 良好	反転復元
21	甕 (口縁部)	復元口径 15.2 残存基高 3.0	口縁部はやや外反してのひ、端部は 丸い。	マキアゲ成形 外面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	胎土 0.5~2mm程度の砂粒を多量に 含む。 色調 内面 棕(5YR7/6) 外面 棕(5YR7/6) 焼成 良好	反転復元
22	甕 (口縁部)	復元口径 18.8 残存基高 3.5	口縁部は外反してのひた後、屈曲し 上外方にのひる。 端部は丸い。	マキアゲ成形 外面 ナデ 内面 ヨコナデ	胎土 1~2mm程度の砂粒を多量に含む。 色調 内面 浅黄橙(10YR8/3) 外面 浅黄橙(10YR8/3) 焼成 良好	反転復元
23	甕 (口縁部) (体部)	復元口径 16.6 残存基高 5.7	口縁部は、上外方にのひる。 端部は丸い。 頸部は、ゆるやかに屈曲し、体部は 下外方に下がる。	マキアゲ成形 外面、内面とも刺落不明	胎土 1~4mm程度の砂粒を多量に含む。 色調 内面 棕(5YR6/6) 外面 棕(7.5YR7/6) 焼成 良好	反転復元

番号	器 種 類 及 び 形 状 記 号	法 量(cm)	形 態 の 特 徴	技 法 の 特 徴	胎 土 ・ 色 調 ・ 焼 成	備 考
24	土 壺 (底部)	復元口径 17.6 残存器高 5.6	口部はやや内傾してのび、底面は 平面を有す。 つばは水平にのびる。	マキアゲ成形 外面 ヨコナテ 内面 ヨコナデ	胎土 1~2mm程度の砂粒を含む。 色調 外面 灰(NG/) 内面 灰(NS/) 焼成 良好	反転復元

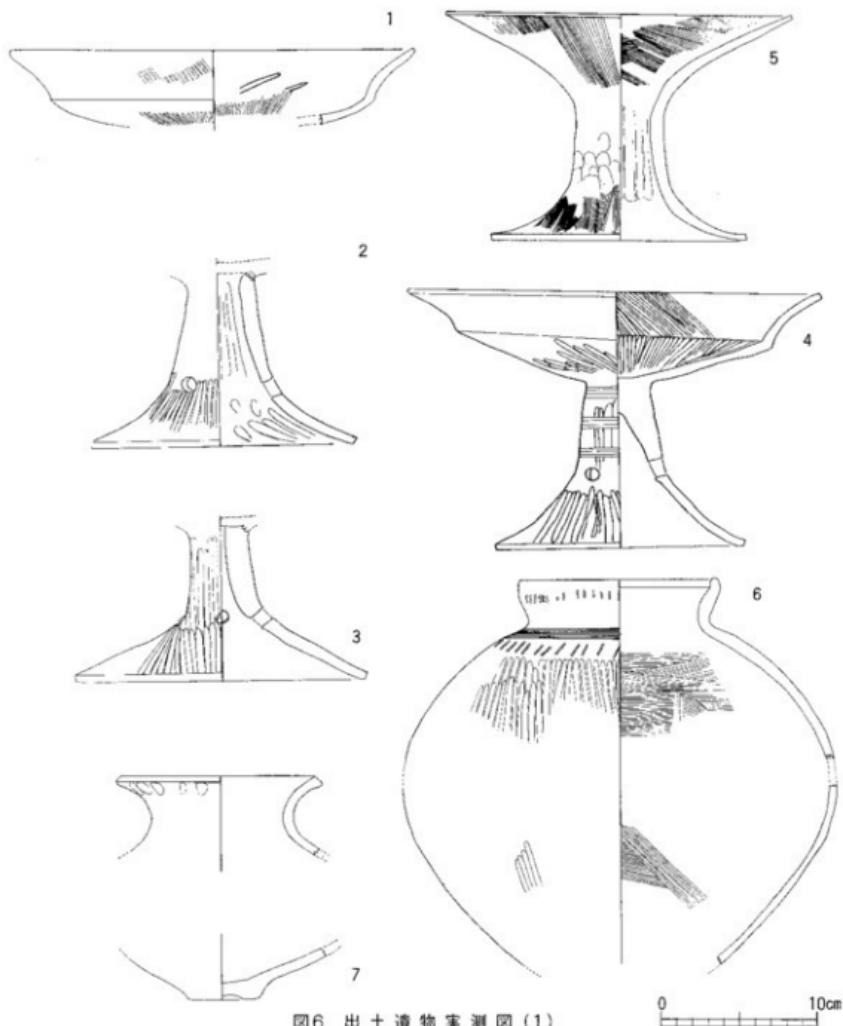


図6 出土遺物実測図(1)

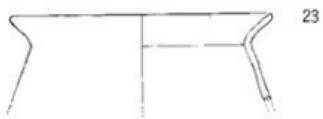
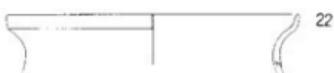
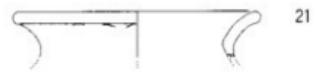
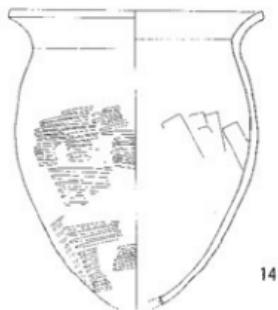
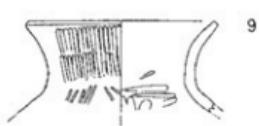


図6 出土遺物実測図(2)

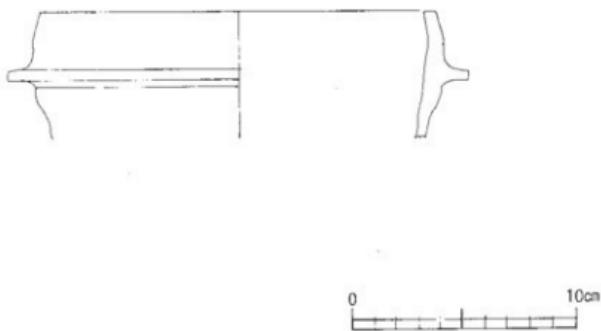


図6 出土造物実測図(3)

(5) ま と め

調査の結果をまとめると次のとおりである。(1)溝状遺構は、地形に応じて北東から南西に傾斜して続き、遺構内からは、弥生時代後期を中心限られた時期の遺物を出土する。(2)溝状遺構上層の第2・3層からは(1)に続く時期の遺物は僅かであり、中世の遺物を中心に出土する。(3)中世以降の遺物は、ほとんど出土しない。以上のことから、同調査地付近では、弥生時代後期になって人が住むようになり、その後、古墳時代になると他の場所へ移り、中世になって再び人が住むようになるが、その後伝説のとおり再び他の場所へ移っていたことが推測される。

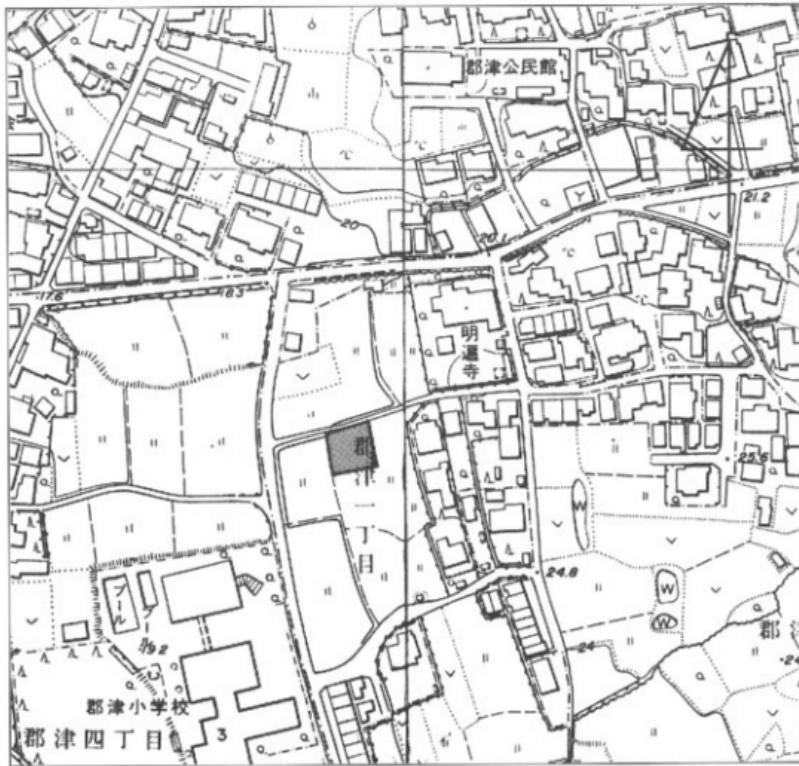
第3章 交野郡衙遺跡調査報告

交野郡衙跡

交野市の天野川流域には、私市の天田神社の付近を一条とし、枚方市駅付近を十条とする条里制が存在したと推定されている。

この条里制のちょうど真中の五条にあたる所が交野市郡津である。郡津はかつて郡門と書いて“こうづ”と呼んでいたことや、地名の中にも“くらやま”など条里制のなごりを偲ばせるものが残っており、また市内でも最も古い寺のひとつである長宝寺が建っていたことや、古道である東高野街道及び磐船街道が交差するところでもあり、古代からこの地域における交通の要衝であったところである。このようなことから郡衙の存在が推定されている。

これまで交野郡衙跡については、1974年から3回ほど現在の郡津神社の位置を中心^にに発掘調査が実施されているが、その存在を確認するには至っていない。



(1) 位 置

本調査地は、交野市立郡津小学校の正門から70m程北東の交野市郡津1丁目377番地内で、東側の台地部分と、西側の天野川流域の低地部とのほぼ中間に位置する。標高は20mである。

調査は、調査地の南側に10m×1mの第1トレンチと北側に17m×1mの第2トレンチを設定し調査を実施した。

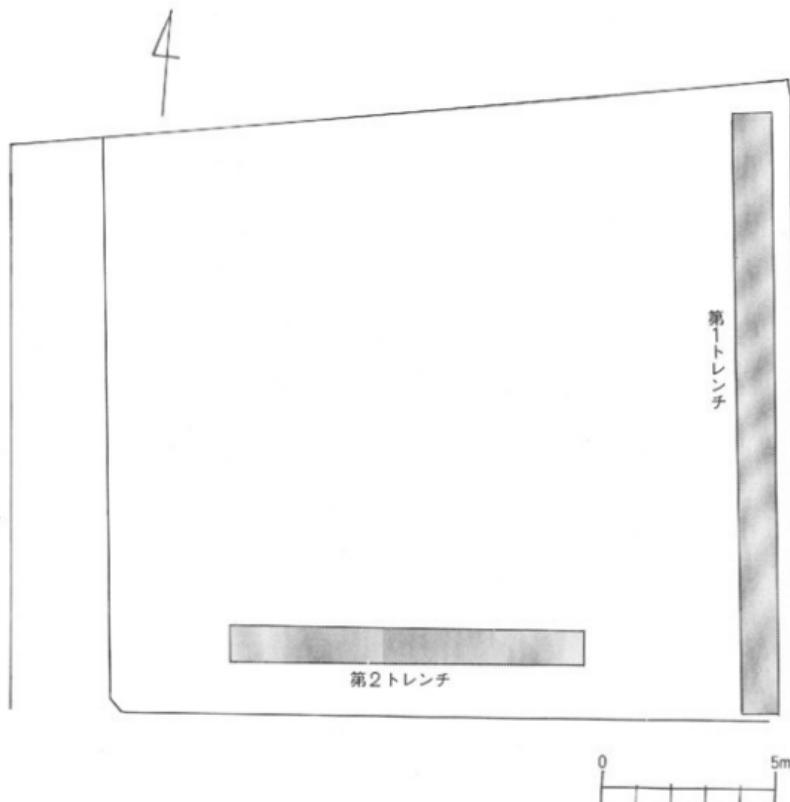
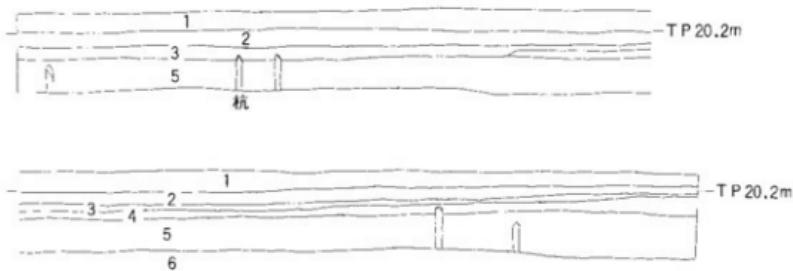


図8 調査地位置図(2)

(2) 層 序

層序については、第1・第2トレンチとも基本的には、同様な堆積を形成する。

地表下40cmまでは盛土であり、その下位に旧耕作層である第2・3・4層がほぼ整然と堆積する。遺物包含層である粘質土混じりの第5層は、約40cmの厚さをもって第4層下に堆積する。第5層の下位は、この地域に広く分布する黄色粘土質の地山となる。



第1トレンチ東側断面実測図



第2トレンチ南側断面実測図

- | | |
|---------|-----------------|
| 1 盛 土 | 4 淡黄灰色粘質土 |
| 2 旧耕作土 | 5 褐色混じりの淡黄灰色粘質土 |
| 3 淡青灰色土 | 6 黄色粘土層 |

図9 調査地断面実測図

(3) 遺 構

今回の調査では、第2トレンチから旧畦溝の杭列遺構を検出したのみであった。

(4) 遺 物

同調査地の遺物包含層から出土した土器類は、土師器及び須恵器の細片ばかりで、時期を特定できる遺物は少ないが、古墳時代後期から奈良時代頃のものと推定される。尚、格子目文の瓦片が同層上面から出土したが、同時期以降の遺物(瓦器等)は全く出土しなかった。

1は鉢の底部で、復元底径13.2cm残存器高3.9cmを測る。内外面共にヨコナデ調整をする。胎土は、4mm程度の砂粒を含み、色調は灰色(N7/)を呈し、焼成は良好である。

2はコシキの把手である。調整は剝落不明で、胎土は1~2mm程度の砂粒を含み、色調は浅い黄橙(7.5YR 8/4)を呈し、焼成は良好である。

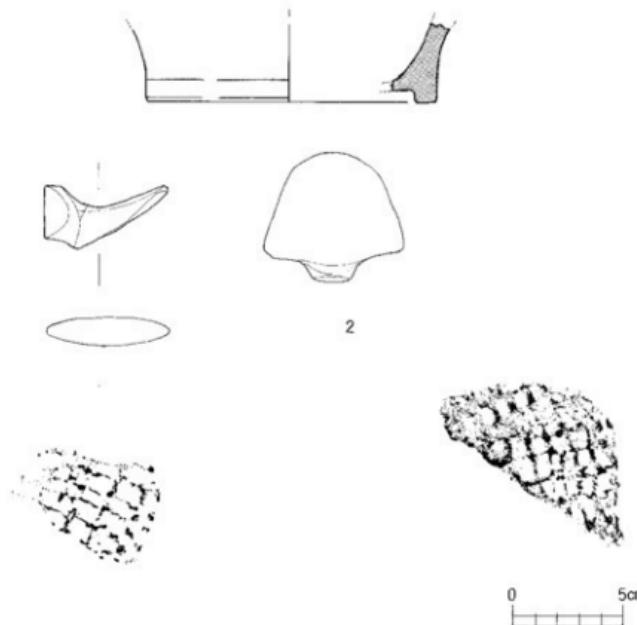


図10 出土遺物実測図

(5) ま と め

調査範囲が狭いことや、遺構が検出されなかつたため、断定はできないが、出土した遺物から考察すると(1)包含層の上層から出土した格子目文の瓦片は、以前南隣りの水田から出土した瓦と同時期のもので、長宝寺の瓦である可能性もある。(2)第5層包含層からは須恵器・土師器以外の遺物は全く検出されなかつた。

以上のことから、同調査地が耕地化されたのは奈良時代以降と推定され、ほぼ同時に建てられた長宝寺のものとも考えられる瓦片が、その後になって第5層上層に堆積したと推定される。又付近には古墳時代後期から奈良時代にかけての集落が存在したことが併せて推測される。

図 版

図版 I



調査地全景

(寺村)



調査トレンチ全景

(寺村)

図版 II



溝状遺構全景

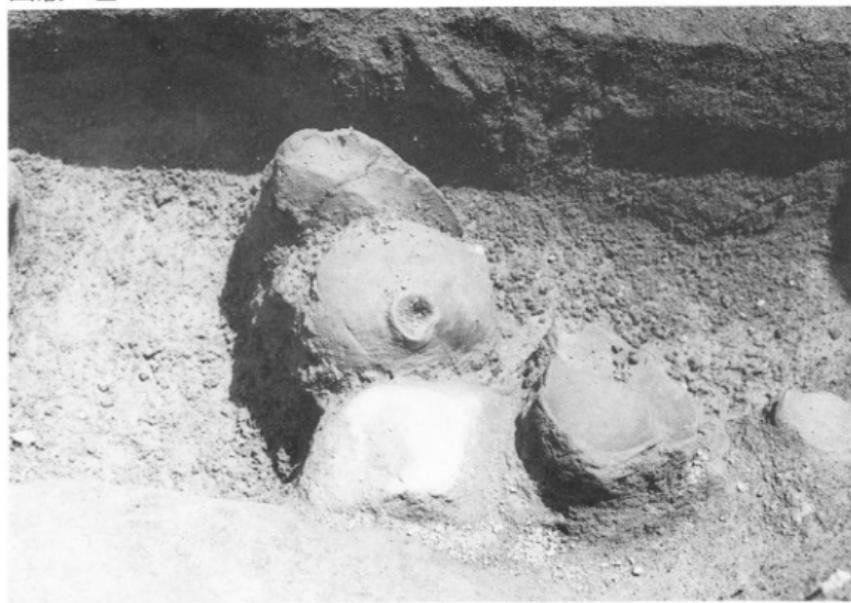
(寺村)



遺物出土状況

(寺村)

図版 III



遺物出土状況

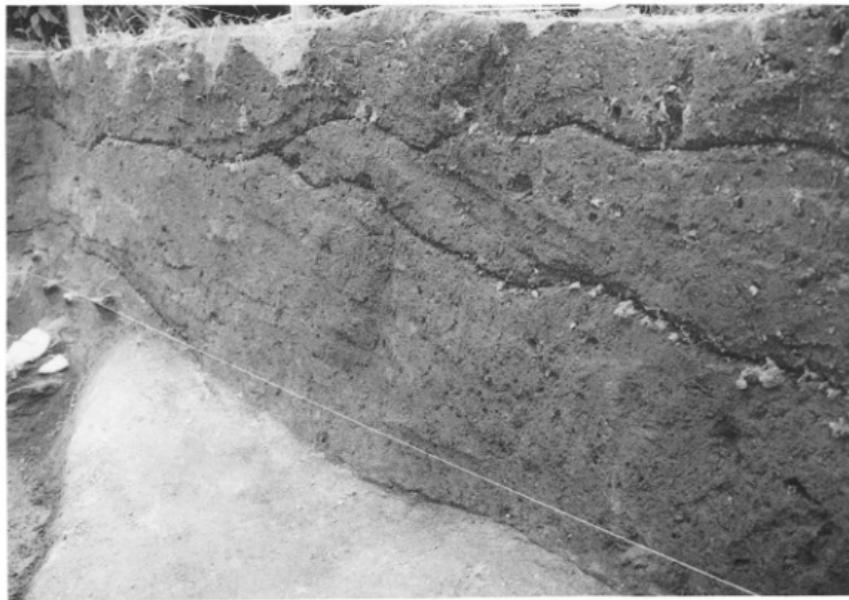
(寺村)



北側断面

(寺村)

図版 IV



東側断面

(寺村)



出土遺物

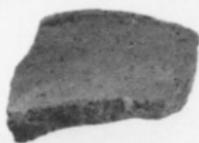
(寺村)

図版 V



出土遺物

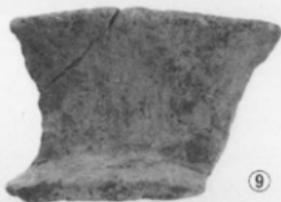
図版 VI



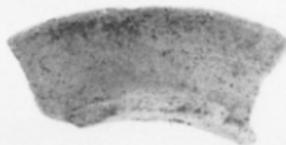
⑧



⑯

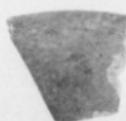


⑨



出土遺物

(寺村)



出土遺物

(寺村)

図版 VII



出 土 遺 物

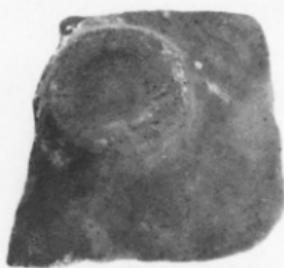
(寺村)



出 土 遺 物

(寺村)

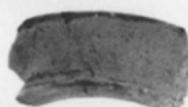
図版 VII



(7)

出土遺物

(寺村)



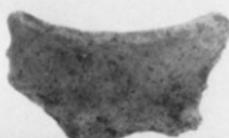
(20)



(23)



(21)



(22)



(24)

出土遺物

(寺村)

図版 IX



調査地全景

(郡津)



第1トレンチ

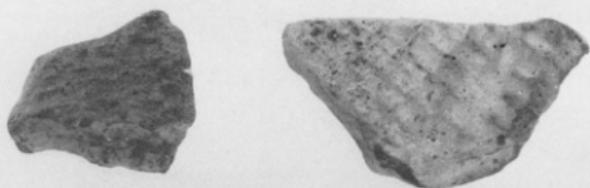
(郡津)

図版 X



出土遺物

(都津)



出土遺物

(都津)

